

平成31年度事業計画書

一般社団法人和乃絆
就労移行支援事業所マイパレット
自立支援教室ひだまりカフェ

1 事業の方針

当法人は、利用者一人ひとりの社会自立を支援するための、支援充実を目指します。社会の一員の育成とサポートと生涯学習の支援、地域活性化を目指しています。セミナーやイベントなどを通して、人との絆を結び、自分なりのライフスタイルを見つけ、いくことを支援します。「こんなことを学びたい!」「人と触れ合いたい!」そんな思いを支えていく事業運営を目指しています。

2 事業所名及び所在地

就労移行支援事業所マイパレット（就労移行）／自立支援教室ひだまりカフェ（自立訓練）
和歌山県和歌山市内原726-13

3 従業者の人数

就労移行支援事業所マイパレット	自立支援教室ひだまりカフェ
◎管理者 1名（常勤兼務）	
◎サービス管理責任者 1名（常勤兼務）	
◎就労支援員 1名（常勤専従）	◎生活支援員 1名（常勤専従1名）
◎生活支援員 3名（常勤専従1名、 ○ 非常勤専従2名）	
○職業指導員 1名（非常勤専従1名）	
○ジョブコーチ 1名（非常勤兼務）	○訪問支援員 1名（非常勤兼務）

4 契約利用者予定数

就労移行支援事業所マイパレット	上限13名
自立支援教室ひだまりカフェ	上限7名

5 サービス提供予定時間

1人月当たり 120時間 1人年当たり 1440時間

6 事業計画

当事業所の特色として、「企業提携先のニーズに合った研修を実施すること」を第一に考えています。生活リズムの確立をはじめ、過不足ない業務連絡や相談など基本的な社会生活スキルを身につけるべく、実践的な作業訓練を実施していきます。

また、生活リズムの乱れが著しい、あるいはフルタイムではなく短時間勤務での就労を目指したいという方に向けて、作業内容や時間を見直したメニューで自立訓練（生活訓練）を開設します。「自立支援教室ひだまりカフェ」と題して、週数時間からの参加など短時間しか参加が難しい状態にある方の就労を考えていくことをテーマにしていきます。

① 事業所内作業

前年度から受託している内職軽作業および不定期に受託しているDTP作業、株式会社オービス総研の社会貢献活動「はじまるくん」に係るパソコンリサイクル作業および発送業務ほか和歌山事務局としての事務作業を継続していきます。

平成29年12月より試験的に開始していた名刺データの検索修正は、精度を高めていく、あるいは職員によるダブルチェックが十分にできない、振り返りを可視化していくことが難しいといった理由から、ほとんど未実施でした。今後は、ネットショップや名刺に限定したDTP作業など、パソコンを活用した作業については、試験的に取り組んでいく予定です。平成30年11月より開始している名刺に特化したDTP作業では、受注先の拡大を図るべく、営業回りをしていく予定です。一定の作業量が確保できれば、自立支援教室ひだまりカフェの利用者さんを対象にしたリモートワーク（在宅就業）の模擬的な実験もしていく予定です。

協力先：株式会社ヤエパック、小久保工業所、NPO法人わたぼうしくらぶ、株式会社オービス総研

② PC技能訓練

「日本情報処理検定」の検定試験に取り組み、主にWordとExcel操作の訓練を週2回実施していきます。対象者に応じて、イラストレーターやフォトショップの検定試験にも対応できるよう、サーティファイの試験実施会場としても登録を始めています。タイピングスキルの向上だけに留まらず、事務補助業務で想定される電話応対や軽作業などに取り組む時間も拡充していきます。検定試験を開催する予定の7月、12月以外の期間には、訓練室を仮に事務所と見立てて、業務連絡や報告をメールや電話で模擬的に行う訓練を実施していく予定です。今後は、実践的なマナーについても検定試験など見通しを持って参加できるよう体系作りに取り組んでいきます。

また、アビリンピック大会への参加を促し、向上心を育むことや自身のスキルを自覚できるようにすることなどを意識した指導を心がけたいと思います。

③ 施設外就労

指導員が引率し、実際に企業に出向いて就労を行います。前年度、請け負っていた観賞魚の養殖用水槽の洗浄作業、公園清掃を継続して取り組んでいきたいと考えています。いずれの業務でも、企業の求める水準を意識して参加することが求められるもので、引率する職員によって求める水準や内容に大きな差異が生じることのないよう、前年度の反省を活かしつつ、チーム支援を意識して取り組んでいきます。

また、紀の国はまゆうさんから請け負っている公園清掃では、事業所の利用者だけでなく、生活困窮者や生活保護者に向けた中間的就労の場としても和歌山市と県にそれぞれ登録し、受入をしていく予定です。

協力先：株式会社KUSUNOKI、紀の国はまゆう

④ 企業等実習・就労体験

前年度と同様に市や県が実施しているインターンシップ制度やジョブコーチなどの活用をすすめるとともに、雇用を前提としない啓発活動も兼ねた就労体験や企業等見学の機会も積極的に設けていく予定です。定着支援事業の指定を見送り、事業所内外ともにジョブコーチの配置に取り組んでいるところです。前年度は、サイトや広報物を見て直接企業の人事担当者から問合せがあることもあり、事業主支援にも力を入れるべく情報発信のあり方を整理していく予定です。

⑤ 職業訓練・事業所内活動

前年度は、広く「社会経験を積む」ことを意識して臨機応変に内容を変更していたSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）ですが、今年後も、内容を固定化せずに取り組んでいく予定です。特に対人スキルの向上を目指してカードゲームを取り入れることが目立った前年度でしたが、分かりやすく取り組みやすいアイテム探し、あるいは作成についても力を入れ、有益なものは広く発信していく予定です。

そのほかの活動についても、知識やスキルを得るためという目標でなく、体験や実践を通して経験値を得るということを意識して展開していけるよう職員や講師同士で知恵を出し合い、計画および実践、また職員会議などで振り返りをしていきます。また、通勤の課題もテーマの1つであり、課外活動への取り組みも強化して参ります。

⑥ 新規利用者の確保について

運営また経営上、利用者確保については常に考えなければいけない課題です。新たに指定した自立訓練事業も就労移行支援事業も、通過地点であり、報酬や運営面の課題はこれまで同様です。とはいえ、これまでの障害福祉の変遷から考察するに、今後は循環型への考え方の転換が必要だと考えます。福祉サービスの成果を、「一生面倒見てくれる」ではなく「自分なりに自立できるようになった」といったことに求めるべきであり、

そうした理念や信念を持つことが、対象者本人やご家族、地域からの信頼につながるものであり、事業を深め、発展させていくために必要なことと考えます。今回は、自立訓練という事業を上げたこともあり、これまで以上に「どんなニーズがあるのか」「それに対してできることは何か」を考え、「できる限りのことをできる限りしていく」という方針の下、できる範囲についてはケースによって、その都度、関係機関らと協議を重ねていこうと考えています。

また、難病支援やこれまで受入体制を整えることができていなかった身体障害や聴覚、視覚障害に関する職員研修に参加するなどの取り組みを実施していく予定です。作業量や内容が整理できれば、積極的にリモートワーク（在宅就業）の可能性を模索するなどし、新たな働き方、雇用形態についても提案していきたいと考えています。

⑦ 地域に開けた事業所作りについて

ご本人の意向や個人情報保護にも配慮しつつ、インターネットや各メディアを通じた情報発信をこれまで同様、積極的に行っていきます。その際、活躍している場面に注目してもらうよう意識し、障害＝能力不足ではなく、支援や工夫で企業での戦力になるという姿を発信していけるようにしていきます。

7 今後の展開

① 就労定着支援事業について

就職後の支援については、人件費や運営面でも課題が多く、新たな事業の指定について検討していたところでありました。かねてより配置して活躍いただいているジョブコーチですが、業務内容は近いものの、関係機関との連携方法が全く異なり、兼務することへの難しさが出てきたところです。就労定着支援の指定のためには、新たな人員配置が必要だと考え、保留にしています。

② 当事者や家族への情報発信について

試験的に就労に関する情報のキュレーションサイトですが、目立った反響というほどではないものの、ウェブからの問合せは、対象者からも企業の人事担当者からも増えたところです。当事者への情報発信に留まらず、事業主支援や地域への啓発も含めた内容を取り上げていく予定です。

W a k a y a m a . W o r k a b l e . W o r k i n g .

わ。(和歌山発信の) わ。(働く・働きたい人のための) わ。(仕事応援情報キュレーションサイト)

<http://working.wanokizuna.org/>

以上